

2 令和2年度学校関係者評価結果

1 学校関係者評価を実施した主な評価項目

- ・ 組織的な自立活動・各授業の改善と研修の充実
- ・ 安全で安心な学校づくりと健康の保持・増進
- ・ 保護者、地域及び関係諸機関との連携強化
- ・ 会議及び校務内容の精選による勤務時間の適正化

2 自己評価結果について

- ・ 自立活動の指導については、ケース会等を通して組織的に取り組むことができた。また研修について、特に動画視聴型の研修において指導や支援の実践で生かせるものを取り上げ計画・実施した。職員一人一人が、自分で研修を選択し参加する機会を提供することができた。またコロナ禍に対応した新しい形での研修を計画・実施することができた。
- ・ 職員への動画視聴環境を整えるなどして防災、防犯への意識向上を図ることができた。また、ヒヤリハットについて幅広く報告されることによって、職員の安全意識の向上を図ることができた。
- ・ 卒業後の社会生活の場としての新規の事業所について、動画配信などを通して職員へ周知することができた。また、地域の小中学校への支援を継続することにより、的確なアドバイスを行うことができた。
- ・ 会議を別の会議に合わせるなどの合理化等を進めた結果、職員の長時間勤務の削減に寄与することができた。また、電話対応時間を決めることで保護者等外部への働き方改革に対する理解を進めることができた。

3 今後の改善方策について

- ・ ICT機器の充実に伴い、各職員の機器活用能力の向上を図るとともに授業等で積極的に活用する場を設定することで保護者への理解を進める。
- ・ 防災、防犯についての訓練、研修を継続して進め、各種マニュアルを改善する。高度な医療的ケア児の増加に伴い、教員と看護師の連携により、安全な医療的ケアを実施する。
- ・ 進路先決定までの流れについて小学部の早い段階から保護者への理解が深まるように職員へ周知していく。また、学校だけでなく地域の関係機関とも連携を図りながら、本人にとってよりよい進路選択ができるようにする。
- ・ 各文書等の電子化を進めるなど、業務内容の精選を図る。

4 その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）

- ・ 保護者への発信の工夫もいろいろされていると思った。とくに訪問教育で集団学習の雰囲気味わう学習ができたことや、読み聞かせ動画を見てもらう取組もできており、良かった。
- ・ ICT機器を使った授業の効果は、子供たちには見られていると思うが、保護者にはまだ十分に伝わっていないと思う。また、ICT機器の効果的な活用は、とくに重度の児童生徒にとって“移動”という負担を回避していろいろな経験を疑似的にできる上で有効である。一方、近年の子供たちにする課題である「具体的体験の不足」の加速化を招くことになるため、「自分の体で感じる」ことを積極的に行うことも大切にしてほしい。

5 学校関係者評価委員会の構成及び評価時期

- ・ 構成・・・学校評議員5名（PTA会長含む）、校長、教頭、事務長、部主事
- ・ 評価の時期・・・2月上旬